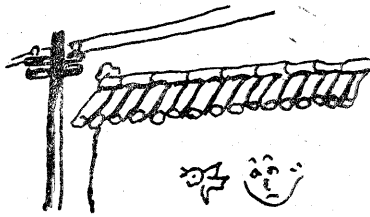


こどもたちはどんなあそびをしているか



吉 幸 谷 室

この調査の意味

コドモらがどんな遊びをしているか。またどんな遊びを好むかを知ること、こどもと生活的に接触が深く、またこどもの生活を善導しようとしている多くの学校教師や、家庭の母親・及び地域こども会・こどもクラブの育成に努力しつつある町の篤志家のために必要なことである。

こうして知れたコドモの生活現実を重要な手がかりとして、ここに基盤をおきつつ「望ましき明日の生活設計」をこどもらのために有効適切に作ることが可能なのである。

▽コドモの生活は「遊び」であるとも言われている。「遊び」の角度からこどもの生活に鉄を入れてみた。

ここに記録した「遊び」は、戦前から戦後にかけて（主として戦後に中心をおいた）東京

のコドモたちの間で、目撃されたものを十数年に亘って採集したものである。

▽遊びに使用する材料や、遊びの形式または方法の類似によって、次頁のように二十種の系列に分けて見た。

△印は男子中心のあそび
○印は女子中心のあそび

こどもたちは

どんな遊びを好むか

▽どの遊びがより多く好まれているかは、八・九才全男女約百名についての最近（昭和二十九年五月）の調査である。

▽「何でもいから好きな遊びをしていいですよ」といわれたら、何をしようと思いますか。三つ位いつその遊びを言ってごらん——そして話し合い形式によって記録をとった。

1 なわとび系△

ゴムだん・くぐりぬけ・波のり・月火(ゲツカ)

2 指あそび系△

あやとり・指すもう・おはじき・あみひも
(花くさり・ビニール系指輪)ズイズイズ
ツコロバシ・上り目下り目・ひよっとこ面

3 手あそび系

お手玉・けん玉・割り竹・ハチさし・風船
つき・はねつき・たこあげ・つみ木・ハン
カチとり

4 ままごと系△

：男の子は小学一年頃まで：うり屋さん
(花屋・色水屋さん)・お客さま・お医者
さん・お人形さん・宝くじ・電関・シヤボ
ン玉・着せかえ・犬ごっこ・花輪つくり

5 じゃんけんあそび系

馬のり・早つかみおに・天下おとし・二十
勝ち・じゃんけん子とろ(花一奴)・旗か
きジャン・じゃんけんとび(チグツパ)

6 かくれんぼ系

かくれんぼ・かごめかごめ

7 石けり系

一足とび・チンパ・温泉マーク

8 ことばあそび系

9 おにごっこ系

早つかみおに・手つなぎおに・ためおに・
くつかくし・木おに・まるおに・けった・
すわりにお・かげふみ・ジャングルジム・
かりうどさん・水雷あそび・軍艦あそび・
天神さまの細道

10 ボール遊び系

※野球系○

ゴロベース・三角野球・野球・フライとり
デブ野球・五かいあて・紙野球・ビー玉あ
て

※まりつき系○

11 かけっこ系△

12 メンコ系○

かたメン・写真メン・まるメン・かくメン・
ボン・メンおこし・ペーゴマ・ネッキ(ニ
ックイ)・メンひこうき・紙ひこうき・こま

13 戦争ごっこ系○

戦争ごっこ・水合戦・ターザンごっこ・ギ
ヤングごっこ・カウボーイあそび(二挺拳
銃)・かいせん・木のぼり・ゴムパチンコ

14 陣取り系○

Sとり(S合戦)うろことり

15 げた釣り系

ゲタ釣り・くつ釣り・ピン釣り

16 探検あそび系

たからさがし・おとし穴

17 うつしえ系

ぬり絵・はり絵(水絵)・こすり絵・日光
写真・あぶり出し・がげ絵

18 カあそび系

腕すもう・ぎつたんばつたん・すもう・お
しくらまんじゅう・馬とび・台とび・鉄棒

19 平均運動系

ブランコ・すべり台・遊動円木

20 その他

紙芝居・将棋(山くずし・はさみ将棋)・
五目ならべ

※遊びに歌を伴うものは

なわとび系・手あそび系・まりつき系のも
のに多い

☆ あそび方

・手ぬぐいかくし
町の銭湯で、鏡の後や桶の下、または風呂
のフチなどへ手ぬぐいをかくす。見つか
ぬ時は「出し」といってかくした者が出す。

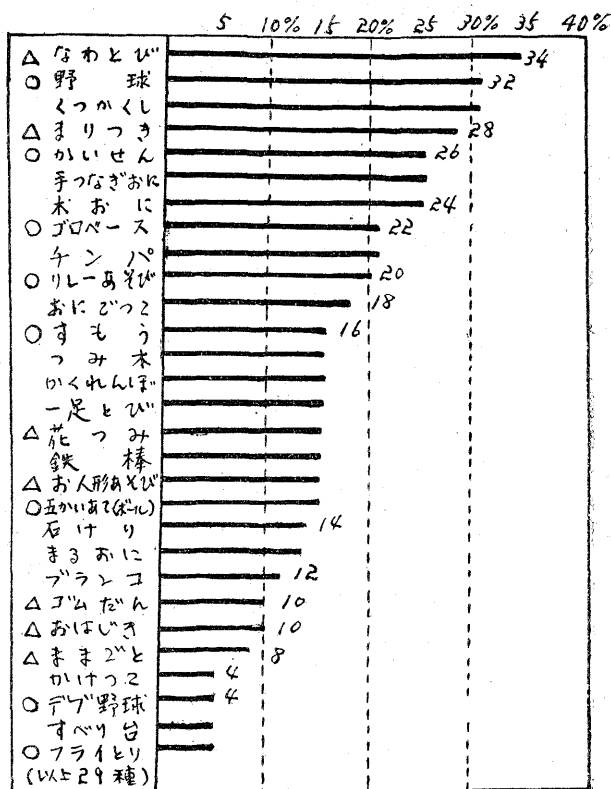
解 説

びを捨て去る——こういう活動がはげしく行われているかという点、必ずしもそうではな

い。遊びの世界に見られるコードモの「伝統維
持」の力は存外にしつこく根深い。今日なお
コードモ大衆により支持され愛好されている遊
びの大多数は、千年・五百年の時の流れに支
えられている。(まりあそび・かくれんぼ・
おにごっこ・お年玉・おはじき等)

遊びの封鎖性

コードモの遊びの



世相と遊び

コードモの遊びは微妙な点で世相を反映している。あからさまに世相を模写する場合もある。しかもその多くは、人間社会の弱点の産物であるようなものの敏感な吸収反射であって、心ある大人の眉をひそめさせ、ヒヤリと肝を冷やさせる。(戦争ごっこ、この異常な泥らん・ターザンあそび・宝くじバンバンごっこ等の性的模写遊びなど)

しかし一方に於ては、これらの遊びは根のない草が、うたかたのようなもので、時勢の流れと共に消滅して行く短命なものである。

遊びの流行力

新しい遊びの方法または遊びに伴う「歌ことば」が、どこで作られ、どんな方法で拡がるかについては、その創作源が明確に捉えられないだけに、興味深い問題といえる。新聞・放送・映画・雑誌等のマス・コン組織を使うわけではないが、その流行伝播の強さと広さと、速さには驚くべきものがある。

専ら「口から口へ」「手から手へ」の原始的伝達方法を用いるであろうコードモの遊びの流行の成功は、一に「コードモたちの欲求と興味との強さ」に支えられているものと言われ

よう。

新しい遊びの方法も「歌ことば」も、その創作と完成は、特定個人の署名によって為されるものではなく、つねにコードモの大衆群の知性と感情との参加によって為されコードモ大衆の認容を通して、成立・伝播する。

あそび方

木おに おにに追われて危い時、どの木でも木につかまるとつかまれない。(木が安全地帯) 助かる木を数本きめといてもいい。つかまった者はオニの陣の木に手をつないで並び助けを求める。

まるおに 大きいまると、その中に小さいまるをかくておく。オニは小丸の中にいて大きなまるの中にいる者をつかむ。オニは大きなまるの外側に出て相手をつかんでもいい。

かいせん(助けおに) まず紅白二つの陣に分かれる。「かいせん」と叫んで両方の陣からかけ出す。「ドン」と言って相手の体を手をふれる。そこで二人でじゃんけんをする。勝った者は、すぐ負けた者を追いかけて、負けた者は自分の陣に帰りつく前につかまる

と捕虜となる。捕虜は相手の陣につれて行かれ、見張りをつけられる。捕虜は、陣の木に手をつないで立ち「助け」を待つ。

くつかくし オニが目をつむってる間にそれぞれクツかゲタかの片方を任意にかくす。オニに目をあけて、さがす。オニに見つけられぬうちに、オニの陣にゲタカクツを持っていつてくつかける。

あそびごよみについて

コードモラの遊びの中には、きまつた時期季節にきまつたように現れてくるものが多数ある。これらは「季節の車にのつて循環する遊び」と呼ぶことができる。

次の表は、ほぼ一年を周期とし、年々同じようにくり返される。いはば「命の長い」遊び・短期間に消滅しない遊び

表右側の○印は、男子中心に遊ばれるもの。
△印は主として女子に遊ばれるもの。その他は男女共に遊ばれるものを示す。

あそびごよみ 註

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野球・ボールあそび ○											
メノコあそび ○											
石けりあそび											
馬のり・おしぐるまんじゅう											
ターザン・シモヤナグ・カウホーイあそび ○											
すまう ○											
かいせんほ・おにどつと											
陣取り											
たこあげ ○											
うつし絵											
おりつき △											
ゴムだん・なわとび △											
あやとり △											
おてびま △											
はまごせ △											
はねつき △											

びについて整理した。

……線はその遊びの出現期(漸増期)消去期(漸減期)を示し、——線は一応の最盛期を示した。

遊びに対する嗜好は、男女によってかなりの差異が見られる。それはまた年々の経過とからみあって、複雑な「遊びの暦」を形成する。

一般に男子が活動的なもの(野球・戦争ごっこすもう・ターザン・キャングごっこ等)を好み、女子が靜的なもの(ままごと・お手玉・あやとり等)を好むのは、生理的必然から理解されることだ。

大まかな言い方では、「七・八才ころまでは遊びの上に性的分化は顯著に認められず」それ以後の年齢において、急速に、遊びの特殊化・限定化が現れるのである。

不備な点は、大方の叱正と協力と、今後の研究とにより完成を期したい。

いろいろなあそび方

▽ 二人が向き合ってしやがみ、両手でナワをもち、片方または、もう片方の間をくぐりぬける。 **なわくぐり**

▽ まず相手のウデをまくりあげ、相手の手のヒラを叩きテノヒラの上に自分のオヤ指とヒトサシ指を開いたハバだけとり、そのあとは自分のオヤ指の腹で指の太さだけ順にはかりあげていく。その時「オナベ オナベ」と唱えつつ、相手のヒジ関節部で止まり、腕をまげらす。その時ちょうど「ナ」で止まれば「ナキ虫」「べ」で止まると「勉強家」だという。 **手あそび**

▽ 円陣になり手をつなぐ。中にオニ一人入り目をつぶってしやがむ。まわりの者「かりうどさん、かりうどさん、大きなえものをとりましたか」とうたいつつ歩き「か」で連手のまましやがむ。同時にオニは「ズドン」といい片手をのばして任意の方向を指す、その手の方向に誰かがしやがんでいると、まわりの者「大当り」と呼ぶ。オニにその方向の子が誰であるか考えて名前を言う。あたればその子とオニは交代する。はずれると、「大はずれと」言われて、前のうたくり返す。 **かりうどさん**

※この遊びは昭和二十四・五年頃大いに行われた。

▽ 三角野球……これはベースを三角形においてする野球あそび。ボールを地面にころがして打つのが **ゴロベース**。ボールを投げて打者までの間でバンドさせバンドして上って来たところを打つ遊び方もある。

▽ 「トリノクソ」と手の甲につばで書いてこすっておいをかいでごらん。本当のトリのクソみたいなおいがするから。 **手あそび**

歌のあるあそび

——その歌ことば

(1)

一かけ二かけ三かけて
四かけて五かけて (両手人さし指はしをかけ)
橋のらんかん (X形にかけあ
手を腰に せわ
はるかむこうをながむれば (手を腰にあてて)
十七八のねえさんが (指おり教えて)
花と線香手にもって

もしもしねえさん (指おり教えて)
どこいくの
私は九州鹿児島
西郷隆盛 娘です

明治十年三月三日
切腹なされたとさまの

おはか参りにまいります

おはかの前に手をあわせ

ナムアミダブツと拝みます

拝んだあとにはゆうれいが

フワリフワリと「じゃんけんぽん」

※以上のうたをうたいながら手で説明的な

ゼスチュアを入れていく。

じゃんけんあそび

(2)

青バラ小バラでトップ屋さんがブツ

トップ屋さんのあとから芸者屋さんが

ベン (三味線をひく手まねをする)

芸者屋さんのあとからおしゃれがホケ

おしゃれのあとから おまわりさんが エッ

ヘン オッホン

おまわりさんのあとから 泥棒が スマヘン

スマヘン

泥棒のあとから ガリバーさんが ドッシン

バツタン (足で強く地面をたたいて)

ガリバーさんのあとから おふろやさんが

ジャブジャブ ジャブジャブ

おふろやさんのあとから 子供が クルクバ

(両手を胸前でクルクルまわして拳を出す)

※このじゃんけんあそび歌は昭和二十九年

の一・二・三月にかけて流行した。簡単

なゼスチュアを伴った歌である。

じゃんけんあそび

(3)

月 火 (月火一人がなわに入つて二度とんで出る)

水 木 (次の者が入り二度とんで逃げる)

金 土

日よ——う日

※なわをまわしつづ歌う。このあと(4)の歌にも続く。

(4)

やまとの そよ風が

さーくらの しずこえて

ビーヒヤラ ビーヒヤラ 三代将

尾張の神さま 四代将

茶つぽに追われて まけたから

ソラ は——いれ

ソラ 出エ——ろ

※なわをゆりつづ波のりあそび。このあと(3)にも続く。

なわとびうた

遊びに伴う歌のコトバには、注目に値する諸種の問題が潜んでいる。

その一、二を書いた。

相(大人の世界)の反映だ。例えば(2)の

歌には汚職・詐欺等暗い世相への諷刺が含まれている。

その二は、流行性のある歌の曲律を借り、たくみにコトバをすりかえた替え歌が見られること。これらには性的興味の発散・満足等の要求にこたえるものが多い。性に関係あるあそびの中に適切な例が見られる。

これらはコードモをとりまく大人の社会生活に顕在する欠損部面または病的偏向面をありありと見せつけるものであり、コードモラの健全な成長を願う人達の手で浄化を図らねばならぬ大事な問題である。

(5)

ホーラホラ

青山の えんど豆は 青くさい

おとのさま おひめさま けーらい 番頭に

げだした

一はッさん 二はッさん 三はッさん……

一おぬけ 二おぬけ 三おぬけ 四おぬけ……

なわとびうた

(6)

A 勝ってうれしい花一匁

B 勝ってうれしい花一匁

A 負けてくやしい花一匁

B 負けてくやしい花一匁

A ふるさとまとめて花一匁

B ふるさとまとめて花一匁

A みかんまとめて東京へ送ろ

B みかんまとめていなかへ送ろ

A あの子はしい

B あの子じゃわからん

A この子がほしい

B この子じゃわからん

A となりの○子ちゃん ちよつとおいで

B となりの×子ちゃん ちよつとおいで

※名ざされた子二人出てジャンケンして負けた者は勝った方の組に入り人数がふえる。

A Bの二組にわかれ、手を横一列になぎ向き合つて歌いつつ前進→後退する
昭和二十六・七年頃最盛だった。

じゃんけん子とろ

(7)

かごめ かごめ

かごの中の鳥は

いついつ 出やる

夜あけの晩に

つるとかめが つべった

うしろの正面 だアれ

人あておに

(8)

通りやんせ 通りやんせ

ここはどここの細道じゃ

天神さまの細道じゃ

御用のない者 通しやせぬ

この子の七つのお祝いに

お札を納めにまいります

行きはよいよい 帰りはこわい

こわいながらに

通りやんせ 通りやんせ

※二群に分かれて歌いつつあそぶ
くぐりぬけ子とろ

(9)

上り目 さがり目 ぐるりとまわつて

ネコの目

上り目下り目

(10)

ズイズイ ズッコロボし

ゴマみそ ズイ

茶つぽに追われて トッピンシャン

ぬけたら ドンドコショ

俵のねずみが 米くつて チュ

チュウ チュウ チュウ

おつとさんがよんでも

おつかさんがよんでも

いきつ こなあしヨ

井戸のまわりで

お茶わんかいたの だアれ 「ヨー子ちゃん」

※何人でも指を折り握り拳にして出してく

つつけ合わせ、指のスキ間を上からつつ

つきつつ歌って行き「だアれ」で止まっ

た人の手の甲を出させ、一同順番に、二

(11)

アンタがた どこサ 肥後サ 肥後どこサ

熊本サ 熊本どこサ センバさ センバ山に

はたぬきがおつてサ それを獵師が鉄砲でう

つてサ 煮てサ 焼いてサ 食つてサ それ

を木の葉で チョイト かくせ

※以上の歌満足に終ると「一かん」とつた

ことになる。次にはスカートを左手でも

ちあげ、その下をまきくぐらせて歌をく

り返す。次にはまりをついて、くるり一

まわりして、前の歌くり返す。その様に

「一かん」ごとにまりのつき方を、さま

ざまに変える。昭和二十一・二年頃に盛

んに行われた。 まりつきうた

(12)

いちじく にんじん さんしょに しいたけ

ごぼうに むきたけ なつめに はつたけ
くねんぼ とんがらし

※「十」の変つた数えことば。割り竹を取る時などに使う。

(13) だるまさんがころんだ

※おにごっこなどで「五十」「百」数えな
どの時、早数えする時の「十」の唱えこ
とば。

(14)

だるまさんだるまさんにらめっこしましよ
わらえばぬかす 一二の 三

※「にらめっこ」の前のことば。

(15)

おしくらまんじゅう おされて なくな

(16)

どれがいいか、となりのおじさん(おばさん)
に聞いてみよ。

どれがいいか 神様にきいてみよ

※数個の中から 一つをえらび出す時 一
つ一つおさえながら唱え、最後の「よ」
で止まつた物をえらび取る。

あそびの始めと終り

始め——「先きめジャン」

「先とりジャン」

中止・反対・終り——「ダメしたよ」

▽ しっけい もつけい はなもつけい 花
が咲いたら またくるよ

▽ 指ぎり かんぎり 神田のおばさん 指
切つて死んだ

うそついたら 針千本のおます

▽ さよなら三角 またきて四角 四角は豆
腐 豆腐は白い 白いはウサギ ウサギは

はねる はねるはバッタ バッタは青い
青いはユーレイ ユーレイは消える 消え

るは電気 電気は光る 光るはおやじのハ
ゲ頭

※これはシトリことばの置き方でいろん
な変化を見せる。例えば、

………ウサギははねる はねるはノミ
ノミは赤い 赤いは電気 電気は光る
光るはおやじのはげ頭

じゃんけんのさまざま

▽ チ・グ・バア

いし・かみ・はさみ

チヨキ・グウ・パッサラ——以上原型

▽ 軍かん軍かん(「いし」を出し) ハァワユ
ー(「かみ」出して)

沈ぼつ沈ぼつ(「はさみ」出して) ハァワユ

▽ ベテベテ(「かみ」ミツキー(「はさみ」
クロクロ(「いし」) ベッテ(「かみ」)

※この呼名は昭和十五年・二十一年頃より
数年大流行。手だけでなく両足を使つて

もしきりに行われた。(両足をそろえてい
し) 両足前後にして(「はさみ」開いて)

かみ)
▽ じゃんけんホクホク北海道(拳を出す)
じゃんけんアメリカ ヨーロッパ(拳を

出す)

▽ 朝鮮行つて(「はさみ」出す) バス買つて
(「かみ」出す) 軍かんのつて(「いし」出す)

ホイ(で、勝負を決める)

※この呼び名は昭和十四・五年頃流行。
▽ ジャラケツ ボンよ

▽ チノ子(「はさみ」グの子(「いし」) ハ
ナ子(「かみ」)

☆「ぴいちくぴいちくなくくひばり」……ひば
りの歌うたい一つ一節の切目毎に拳出し負け

た者抜けて順にへつていく。歌いつつ1・手
を拍ち2・隣の者と交互に掌を叩き合はす

(二拍子)この手拍子に合わせて歌う。
☆ 一度の勝を「一貫かした」「一貫とった」という。

その他のあそび

天下おとし オヤ(大将・天下)をきめ
オヤを最右翼にして横に一列に並ぶ。一人が
左端の者の前に行き、じゃんけんで勝取りす
る。

じゃんけんは一度きりで、例えば「バ」と
唱えて出したのにつられて、列の者も「バ」
を出すと、勝となり左から二人目の前に行
く。

こうして順に大将に近づき、最後に大将と拳
を争う。この際大将の前に行った時は、「お
じぎ」をせねばならぬ。「おじぎ」を忘れる
と、初めからのやり直しとなる。もしうまく
大将を落とした時は、自分が大将となり、今
までの大将は「こじぎ」となる。

ゲタ釣り・クツ釣り ひもの先に釘また
は針金をまげたカギをつけておく。このひも
を「釣り手」の位置から投げ、クツにからま
せて引きよせる。めいめい自分のゲタかクツ
を片方づつ出しておき、ケンケン足が、片方

のクツ(ゲタ)に一方の足をのせて強負をす
る。たくさん釣り上げた者が勝となる。

ネツキ・ニツクイ

先のとがった木また
は大釘を使う。地面にうちつけてつきさす。
つきささった釘を、うちつけて倒す。倒すと
相手の釘が自分のものとなる。

メンおこし

相手の出したメンコの下に
自分のメンコをさしこみ、指先ではじき、は
ずみで上のメンコを引くり返す。うまく返る
と自分の者になり続けて行う。

ぎったんばったん

二人が背中合せに立
ち、互に両手脇で組み合わせ、かわりばんこ
に相手をおんぶする。寒い時のあそび。

ハチつまみ(指あそび)

互に手の甲を
つまむ。その時「一がさした」「二がさし
た」「三がさした」と順番に手の甲をつまん
でいく。「七がさした」「八が(蜂)さした」
で、八つ目になった者の甲を、はげしく強く
叩く。

チンパ(石けり)

「先やりじゃん」で
順をきめる。まず1に石をおき、「チン」で
片足で1に立ち、「パ」で2と3にまたいで
立ち、次に「チン」で4にとび、このように
10までとび、くるりと向きをかえ、8・9か

らとんで1まで戻り、外へ出る。(その時1
の石を拾ってくる。いつも戻りコースで石を
拾帰る)次に石を2に入れて、前の「とび」
をくり返す。こうして石が3・4と進み早く
10まで行きついた者が勝となる。

五回あて(まりあそび)

まず一人がボ
ールを投げる。投げたボールが三つはずんだ
らそのまりを誰かが取る。

取った者が一歩・二歩・三歩・四歩・五歩
と五歩とんで場所をかえ、まりを誰かをね
らって投げる。うまくあたると、あたった
者はアウト。ここで、あたったところをま
りを投げ者が馳けて行ってひろい次の誰か
にあてる。(この時ところがまりは誰が拾
ってもいい)一人で順に五人にあてると、
あたった者五人は「死刑」ということで、
手をつないで一列に横並びする。

並んだ者に向かって更にまりをねらって投げ
る。この時ボールは首から下にあてなければ
ならない。

かんけり

カンヅメのあきカンを地面に
おいて、オニがそれを守る。

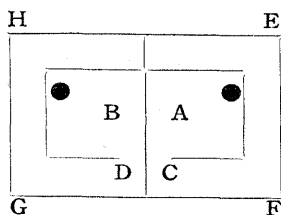
他の者はかくれる。オニは、かくれた者を
見つけて、つかまえようとする。オニのスキ

を見て、陣においてあるカンをけつとばす。

(それまでに、オニにつかまっていた者はカンのおいてある陣に集められて逃げ出せないが誰かがカンをけつとばすのに成功するにつかまっていた者は生き返って逃げる) 全部オニにつかまると、一番先きにつかまえた者が、新たにオニになる。

SとりS合戦 地面に字形の陣をかく紅白二軍に分かれAとBとに入る。二つの陣の奥にそれぞれ宝物をおいてよく。(相手に宝を取られると負けとなる) 両軍は、片足のケンケンとびで相手の陣に攻めこむ。その時のS字のどちら側をまわってもよい。

相手方の攻めこみ、敵を書いてある線の外へ押出すと勝となる。こうして順々に相手を倒して、最後に宝を取った方が勝つ。



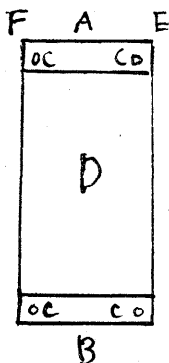
陣取り 紅白両軍に分かれ、AとBとの陣に入る。
●印は宝物。C・Dは出口・入口でここから出入りする。E

F GHは安全地帯で、ここに入っている間はアウトにならない。

陣を取囲む通路を走り、相手の陣に攻め入る。通路を走る際、敵方に押されて、線の外に出るとアウト。また通路の線をふんで足が外に出てアウト。

敵方に早く攻めこんで、隅の宝物を取った方が勝ち。(宝物のかわりに陣を書いておいて、これに足がさわるか、手がタッチするかすると、勝負が決まることにしておいてもいい)

一足とび AとBとに分かれて立つ。自分の持石をきめCの位置におく。



「先きめジャン」で順番をきめ、先攻の者(今かりにAとす)は持石を持ちEFの線に立ち(この線を踏むとアウトになる)Dの中の任意のヶ所に石を投げておく。こうしておいた石を目あてに、その場所まで、助走して来、EFの線から一ト足にと

ぶ。

その時持石をせまいはばでまたいで立つ。両足からはかって石が指巾の範囲にあるかどうかを確かめる。両足の広げた距離が指をひろげた巾以上だとアウトになって、競技はBに交代する

石が指巾の範囲にあって、つまりセーフだと自分の石を拾って、指先に一線を引く。その線に立って、ねらいをつけて、相手の石Cをねらって投げる。相手の石にあたとセーフで、自分の石を持って元に戻る。

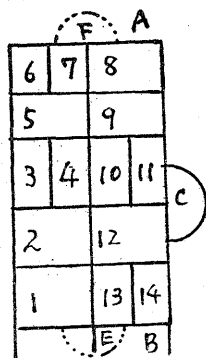
次は「二歩」になる。二歩というのは、前回の通りにEFの線からD内に石を投げる。その石の位置まで、二歩でとんで達すればいいのだ。つまりそれだけ一歩より楽になり、敵の石に近く自分の石をおくことができる。敵の石に近ければ、それだけ相手方の石に当てることも楽になるわけである。競技は有利になるのだ。

こうして三歩・四歩・五歩と進み、しまいは十歩になる。

十歩になると「十足」自分の石を頭にのせそれから落として相手の石に当てて「一カ」の勝越しとなる。

それからまた二カン目は、一足からはじめる。

温泉マーク AとBに分かれて立つ。E



Fは自分の持石をおく所。Cの場所を「100」と称する。

とび方はチンバのように、1・2はチンで片足でとび、3・4はバで両足でまたいで立つ。5はチン。6・7はバ。8はチン。9はチン。10・11はバ。12はチンで13・14はバとなる。どこでも線をふむとアウトになる。

(男と女が数人の場合は、たいいてい男組・女組に分かれ、向かい合って立つ)

今かりにBが先攻となると、持石をIに入
れ、チン・バで13・14まで進み、向きをか
えて、また1まで戻る。石の置いてある1
まで来ると、石を拾って外へ出る。

次ぎに石を2に投げれて、前通りのとび方をくり返す。こうして順々に進み、石が14まで

進むと、一回終りとなる。そして書いてあるワクの外側を三回まわり、Cの「100」の中に立つ。そこで陣の方に背を向け、つまり後向きになって自分の石を投げ、入ったワクに虫マークをかく。(つまり投げた石が今5に入ったとすると、5に虫をかくわけだ)

こうして虫のついた所は、バアになる。両足でとんでいいことになるから、それだけ楽になる。

Aの者がとぶ時には8・9から始めることになる。またAとBとでつける虫マークは互に逆向きの印となる。

バアの所は□のように仕切ってあるが、これを図のように仕切っておいてもよい。

手あそび(こすり逃げ)

AB向き合う

て両手を出す。今Aが両掌合せて出すと、Bはその外側にAの手を被うように出す。そこでAは右手を引抜いてBの左手の外側に持つていこうとする。持っていてBの左手の甲をこする。Bはこすられぬように逃げる。右左思いのままにする。

時勢の流れとあそび

一般社会の興味の焦点の所在を物語る遊び

二、三をあげよう。時代嗜好の傾斜の産物としてこれらの遊びは、歴史の一隅に書留めらるべきものだろう。

Gメンのビストルごっこ(昭和十一年)から、敵前渡河(昭和十四年)へ。相撲あそび(昭和十六年)から戦後の宝くじ・パンパンごっこ・虫マークへと、これは遊びによって綴られる昭和日本の歴史でもある。

敵前渡河……マツチ棒六本でイカダを組み押しながら畳のへりを越える。

土合戦……防空壕で土を掘り合う。後から投げてはならぬというルールがある。

粘土でタンク作り。マツチ棒さして大砲とし、日の丸をつけて立てる。

※以上昭和十二年より十七・八年にかけてギャング映画「Gメン」の広告が出た。

それだけで氷柱をビストル形にして、擬して遊ぶ子、にわかにふえる。

※昭和十一年二月・北海道

試験期で紙のジャンケン取りはやる。一人で千枚二千枚とためる。

※昭和十年前後。入学試験華かの頃。

紙で相撲取の形を切りぬき、紙上の土俵にのせて取組ませ、手で紙面をバタバタ叩

いて相撲をとらせる。

「片やチンボン・片やコンボン」

「のこったのこった、昨日のまんじゅう半分のこった。去年のヨーカン半分のこった。」

▽ 二挺拳銃……昭和二十七・八年の西部劇

（映画）の刺戟による盛行。

▽ 宝くじあそび 也マーク

ことばあそび

―音階もじり―

▽ ドラネコそら来た どしたらヨカンベ。

▽ 一でもない二でもない 三べた野郎 四

りもしねえ 五たふく野郎 六でもない

七面鳥 八つたおせ こん畜生 十んでもない

※机を手で打ちつつ右の文句をいう。

▽ トーフ屋のオヤジが豆食ってパウ トー

フ食ってパウ いも食ってパウ くらさいよ

▽ 大寒ム 小寒ム どうかの子供がとんでった。

―悪口（あざけりことば）―

▽ へのへの学校 へぼ年 ばか組

―おにごっこで―

▽ ヤーイとんがり八本とんがり十本こまでこいよ。

▽ 或時、空にカリがとんでいた。雨が降って雁がさかきにおちて来た。ナーンだ。

それは「アメリカ」

▽ オッベケベ オッベケベ オッベケベッ

ボベッボツボ 蛙の目玉にきゅうすえてそれでもとぶならとんでみな オッベケベ

オッベケベ オッベケベッボベッボツボ

※昭和九―十年頃流行した。

▽ ……（こまるこまる大こまる）

―念仏くづし―

▽ ナンマイダア ナンマイダア 一枚だ

二枚だ 三枚だ

▽ ゆさゆさ ごんぼ（木の枝にのりゆすつて）

―封じことば―

▽ そうです・はい・いい・黒・白の五つのことばを使ってならぬと決め、会話中使った者はアウトとなる。

―反対ことば―

▽ 何でも反対のことばを使って話し合う。

あざけりことば

▽ ○○（学校の名）の先生 ポロ先生 一

タス一もしらないで 黒板たたいて泣いていた。

▽ 君はえらいよ 西郷さんだよ 上野の山で立たされ坊主

▽ 「ピンとカンとどっちがいい」（ピンと答えると「ピン之」「カンと答えると「金持」という）

▽ 「ゾーキンとバケツとどっちがすきか」（バケツと答えるとバカ。ゾーキンと答えると手をねじりまげる）

▽ 「ハイ」と言わせてみようか。

「ウン」と言わせてみようか。

▽ 「あらうしろにマツチがおちてるよ」後を見ると「マチがってごめんなさい」

▽ 「音ごとに下唇をまきこみ尾音を添加する。例えば「なりました」を「なワリイマワレಿತワ」

―類たき（昭和十四・五年頃）―

すべりや（云いながら両手で頬をなでる）

いたりや（で、頬をつねって）

ドドイツ（で、拳を握って頬を叩いて）

オイ（で、頬を平手で叩く。または拳を出してじゃんけんをする）

面相あそび

▽ ひよっとこ面

目尻を二本の指で押しあげ、一指で鼻の穴を上向きになるように押さえる。

▽ ひたいを叩いて舌を出す

次にノドを右手でつまんで手を右に動かすと舌も右、左に動かすと舌も左に動かす。次にノドを引いて舌をひっこめる。

遊びを書いた子供の文

1

学校からかえるとき、豊川さんとわたしでお花つみをしました。白とピンクののばらを一本づつと、雨ふりあさがおを五つと、雨ふりあさがおのつぼみを六つと、むらさきいろの小さいお花をとってかえってきました。それからむぎのおれたのを一本づつとてきました。おうちにかえてかびんに入れておきました。まだびんびんしています。おどりにいったかえりにばらをとってきました。ただけど名まえがわかりません。

花つみ

2

今日は日曜日なのでともひろちゃんとあ

そびました。はじめに温泉マークをしました。私ともひろちゃんと、どっちがチンバ

うまで作って、できないので、作るのをやめました。

4

家作り

を先にやるか、じゃんけんをしました。そしてたわわの方がバアで、ともひろちゃんがグウなので、ともひろちゃんが負けました。するとおねえさまが戸をあけました。「おとしあな作らない」とおねえちやまがいいました。それで、みんなでおとしあなを作りました。おとしあなを作ったら、みんなで「だれをおとそうかなあ」といって、けい子ちゃんと、上のおねえさまをおとしました。それでけい子ちゃんのくつ下をまっくろにしてしまいました。私は、けい子ちゃんに悪いことをしたと思って、おとしあなをちよつと、うめました。温泉マーク・おとしあな

5

工作遊び

3

うちのうらに、こわれた門がおいでありました。それをこわして、まいちゃんといずちゃんとはぐとで、家をこしらえました。はじめに高さのおなじぼうを四かく立てて、いたをよこにうちつけて、はこで入り口のところにはドアをつけました。こわした門のところに三の八九とかいてあるかねがついていました。それを入り口にうちつけました。とちゆ

今日のおひるごろ、松の木のおばちやまがいらっしゃって、おもちゃの汽車をくださいました。おばちやまの子のかずのぶくんは、バットをかってもらって、とくいになってふりまわしていました。ちかちゃんは、ピアノです。おばちやまがかえってから、ぼくと弟と、ざぶとんのトンネルの中へ、汽車を走らせたり、ジープとしようとなつさせたり、車庫を作って車庫に入れたりしてあそびました。弟は、すぐねじがゆるむたんびに反対にまきます。それでも汽車はこわれません。汽車ははしるときに、ビビビビと、カナリヤのこえみたいな音をたてて、はしります。あまり

おもしろいので夜まであそびました。

汽車ごっこ

6

今日は母の日。わたしはあさ早くおきて、ごはんとおつゆを作りました。ごはんをたべながら、わたしはクローバーをつんできて、おかあさまの指わを作ってあげました。おかあさまが「ありがとう」といいました。わたしはうれしくてたまりません。なにかをやっているまに、おかあさまの指わがちぎれてしまいました。ちぎれた時には、指わはどんなに悲しかったでしょう。でも母の日にこんなにお手つだいしたのははじめてです。

花わ作り

7

きょうは、せっちゃんときずちゃんとして学校ごっこをしました。せっちゃんは先生です。はじめは「悪い語」で、「あ、先生のスカートやぶれてら」なんて、とてもおもしろかった。

学校ごっこ

(明星学園教諭)

昭和30年度フレーベル館新学期用品



☆ 保育日誌(用紙)

☆ 出席カード・貼紙

☆ おさいくちよう
(大・小)

☆ じゅうがちよう
(特・A・B・C)

☆ おりがみ

(二十色、特製・並製八四寸・五寸V)

☆ まんてんくれよん
(十二色・十色・八色)

昭和三十年度の新学期用品が完成いたしました。昨年より一層よい出来栄えだと、自負いたしております。幼児になじみ深いくだもの花の観察をあわせ編集した出席カード、美しく楽しい装幀のおさいくちようじゅうがちよう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよん、いずれも幼児教育にはなくてはならないフレーベル館の新学期用品です。なお、右のほか種々取揃えてございます。お申込みは当社または代理店へ！

